【授業科目】公衆衛生学　　Public Health

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
大島 茂、井上 孝	３年次後期	必　修	1	15	講 義	あり	巻末掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／公衆衛生学の扱う範囲は、非常に幅広い。本講義では予防医学、保健統計をはじめ学校保健、地域保健、母子保健、産業保健、感染症の疫学について教授する。本講義では、特に人が生活する上で必須な環境保健や保険制度に関係する基本的な事柄、統計資料の読み方などについても講義する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／適宜実施する課題については模範解答を解説する。提出されたレポートについては解説し、コメントをつけて返却する。
実務経験に関する 授業内容	医学部の基礎医学在籍経験で、臨床検査技師を持つ教員が、公衆衛生の中の予防医学、保健統計をはじめ学校保健、地域保健、母子保健、産業保健、感染症の疫学について、視覚教材や経験を交えながら指導する。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	①公衆衛生学で学ぶ様々な専門知識を自分の言葉で説明できる。 ②最新の統計資料を読み、考察ができる。 ③予防医学の推進に必要な計画を立てられる。 ④講義で学んだ知識を臨床の現場や地域貢献の場で実際に応用できる。
時間外学習に必要な 内容・時間	教科書や講義に用いた配付資料等を復習し、要点をノートにまとめること。受講にあたり、60分程度の予習と90分程度の復習を行い積極的に取り組むこと。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1 回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。 詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第1回　公衆衛生の概略 健康の定義、公衆衛生の定義、健康の３要素、予防医学、世界保健機関（WHO） 第2回　健康と環境 集団検診、スクリーニングテスト、敏感度と特異度 第3回　健康の指標 人口静態統計、人口動態統計、年齢調整死亡率、合計特殊出生率、患者調査 第4回　感染症とその予防 感染症法、予防接種法、ワクチンの種類、検疫法 第5回　食品保健と環境保健 食品衛生管理、国民健康・栄養調査、地球温暖化、温熱環境、四大公害病 第6回　医療保険と地域保健 国民皆保険制度、国民医療費、保健所の役割、市町村保健センターの役割 第7回　母子保健・学校保健 母子保健統計、学校保健安全法、学校における感染対策、出席停止期間の基準 第8回　精神保健福祉・産業保健 措置入院、労働安全衛生法、職業病、労働衛生の3管理	1 回、 5 回～8 回 大島 2 回～4 回 井上
評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 定期試験 100%　授業態度も加味する。
教科書	『最新臨床検査学講座公衆衛生学2025年版』 出版社：医歯薬出版
参考書等	『公衆衛生がみえる2024-2025』 出版社：メディックメディア
学生への メッセージ	教科書で該当箇所を読むことで、この科目の理解を深めて下さい。